



小説の未来 (5)

解説

春日信彦

自作の補足解説

現在電子書籍にて①さやかシリーズ ②スポーツシリーズ ③黒猫シリーズ ④コロンダ君シリーズ ⑤ゆう子シリーズ ⑥三島シリーズ ⑦企業犯罪シリーズ ⑧理恵シリーズ ⑨白いカラスシリーズ ⑩人形シリーズ ⑪沢富刑事シリーズ ⑫亜紀ちゃんシリーズなどのシリーズものを書いています。シリーズ以外の作品を含めると、71作あります。すべての作品には、それぞれ特徴があって、解説しづらいのですが、作品への思いを述べてみます。

作品の根底にあるいくつかの基本概念として、「有限と無限」「個人と組織」「快と不快」「絶対と相対」「安定と不安定」「真と偽」などあります。これらの概念を自分なりに小説化してみましたが、そのことについていずれ説明したいと思います。地球上には、いろんな物質が存在します。その中の一つに人間が存在するのです。「人間とはなにか？」を考える上で、私は小説という表現方法を用いました。

小説を書くということは、“不可思議な人間である自己”を既成概念にとらわれず、自分なりに表現することであり、無限に存在し続けるであろう人間の在り方を考えることだと思っています。小説家を目指す人たちは、現在の思考概念にとらわれず、未来の脳機能を見据えて、オリジナルな世界を創造していただきたいと思います。私の小説とエッセイがお役に立てれば、この上ない幸せです。

①さやかシリーズですが、主人公はさやかとアンナの二人です。ドラマでは、重要なわき役として、二人をモルモットとして脳を研究している精神科医のドクターと三人に振り回される数学者の拓也が登場します。さやかは、宇宙ステーションで遺伝子組み換え人間として生まれましたが、生殖機能に欠陥が見つかり、地球上の孤児施設で育てられることになりました。アンナも孤児ですが、さやかより後に施設に預けられ、さやかを姉のように慕って育ちました。さやかはドクターの精神病院で看護師として、アンナはAV女優として働いています。

「魔界島の決闘」では、身ごもった恋人を捨て、国際的武器商人となった極悪非道の老人と彼の娘への愛情を描いてみました。いったん魔界島に入り込んだスパイは、生きて出られないおきてがあったが、さやかとアンナは、AIで走るモンスターポルシェとのカーレースのチャンスを与えられました。アマドライバーのアンナが勝つ確率はゼロだったが、アンナが無事に生還できるように、老人はアンナが運転するフェラーリが有利になるようなチューニングを施し、アンナに勝利を与えました。

アンナは老人が父親だとは全く分からなかったのですが、老人は別れた恋人からプレゼントされたペアのペンダントの一方をアンナが身に付けていたことから実の娘と確信しました。そのことをアンナには伝えませんでした。老人は別れた恋人への罪滅ぼしとしてアンナを幸せにする決意をしました。老人は、金儲けのために大量の殺人兵器を製造販売し、多くの子供たちを殺りくしているのですが、実の娘を目の前にしたとき、人類の幸せとは一体何か？を考えたのでした。

②スポーツシリーズの「義足のゴール」では、カンボジアの地雷で右足を失い、サッカー選手としての未来を失った女子高生の絶望からの再起を描いてみました。幼少のころからサッカーをやっていた理子は、お嬢様高校にはサッカー部はなかったが、日本一のサッカー部を創設しようと、あえて、優秀なスポーツ選手が集まるお嬢様高校に入学した。そして、サッカー部の創設に日々悪戦苦闘していたが、部員はまったく集まらず、落ち込んでいた。そんな時、幸運にもカンボジアへの研修旅行に参加できることになり、同じく研修に参加したサッカーチームFC福岡の先輩、健太とともにカンボジアに向かった。

理子と健太は、幸運にも同じ村でホームステイすることになったが、ホームステイ最終日の前日に理子は原因不明の熱を出してしまった。村長は、即座に救急車を依頼したが、洪水による車道の浸水のため、隣村までしか救急車が来られないことが判明した。その村と隣村の間の野原は完全に地雷が撤去されておらず、地雷爆発の危険があったが、村長の案内で、健太は村人がよく通っている小道を理子をおぶって隣村まで歩くことにした。ところが、三人が隣村を目前にした時、犬が苦手な健太は、数匹の犬の鳴き声に驚き、理子を不覚にも落としてしまった。その時、不運にも理子は右足で地雷を踏んでしまった。

地雷の爆発で右足を失い、サッカー選手としての未来を失った理子は、そのショックから立ち直ることができず、自殺を決意した。そんな時、東京で理子の生活費を一生稼ぐ決意をした健太は、別れの最後の試合に理子を誘った。理子は、健太との別れの日、献身的な彼の愛の告白を受けた。そして、健太の愛に応えるため、理子は、健太と力を合わせてカンボジアの子供たちにサッカーを教える決意をした。新しい夢を実現するために高校を中退した理子は、両親の反対を押し切り、健太とともにカンボジアに向かった。未来を作り出す若者のエネルギーの素晴らしさを描きました。

③黒猫シリーズの「母性の罪」では、墮胎の罪に苦しむ39歳の女教師ルミ子と教え子の中学生とのエロスを描きました。神様のいたずらなのか、孤島に赴任したルミ子は、親友麻美の子供、剛士をマンツーマンで教えることになった。ルミ子は、大学の時、彼氏に裏切られ墮胎していた。その時から、墮胎の罪に苦しみ、恋愛恐怖症になっていた。だが、誰もいない教室で母親のように剛士に教えていると、しだいに罪悪感は消え去って行った。

ルミ子は民宿に下宿していたが、ある日、そこのおばあさんから、剛士の父親は、診断の結果、無精子で子供を作ることができない身体だとルミ子は知らされた。また、10年前に麻美は失踪したということになっているが、おばあさんは、そのころ誰一人孤島から出て行ったものはいないと断言した。その話からルミ子は、麻美は子供欲しさに不倫し、そして、夫の子供と偽って剛士を出産したのではないかと推測した。また、麻美は、島を出て行ったのではなく、不倫の罪悪感から自殺し、孤島のどこかで眠っているのではないかと推測した。

ルミ子も徐々に心が回復するにしたがって、妊娠の欲求が強くなっていった。剛士が高校に無事合格後、二人は剛士の自宅でくつろいでいると、ルミ子の子宮は爆発的にうずき始めた。妊娠の欲望を抑えきれなくなったルミ子は、ついに、親友麻美が産み落とした15歳の鳥羽を誘惑してしまう。夏のある日、妊娠したルミ子は、取り壊されることになっていた剛士の家を見に行った。そして、“白骨が出てきたばい”という床下を掘っていた土木作業員の驚きの声を聞いた。麻美の亡霊が乗り移った黒猫が、ルミ子に寄り添い、罪を背負ったルミ子の将来をじっと見守っていた。

④コロнда君シリーズの主人公は、法務大臣の父親の意向に沿って政治家になっていく青年コロнда君です。彼は、T大文I卒業後、警察庁のキャリアから弁護士、参議院議員と転職していきます。本人は、小説家を志していましたが、文才がないことに気づき、挫折しました。コロнда君の父親の愛人お菊さんが、脇役としてドラマを盛り上げます。お菊さんは、京都の老舗料亭の娘で、文才に恵まれた彼女はエロ小説家として活躍していきます。コロнда君の実の母親が亡くなってからは、お手伝いさんとしてコロнда君と一緒に生活しています。

「ありふれた殺人」は、同性愛者の片方が結婚するということから起きるソープランド殺人事件で、殺人現場は男が遊ぶソープランドです。刑事は、犯人は当然“男”と思い込み、まったく見当はずれの捜査をします。本来事件には首を突っ込むことができないのですが、詮索好きのコロнда君は、県警本部長にお酒を飲ませながら言葉巧みに誘導尋問をして、彼からある程度の情報を手に入れました。

そして、東京に帰ったコロнда君は、女性心理に詳しいお菊さんに相談します。いつもは、名推理をするお菊さんも不可解な事件にお手上げ状態になりました。お菊さんは、親友の女性が何か事件のカギを握っているのではないかとひらめき、福岡に行つての聞き込みを提案します。コロнда君は、糸島市のレストランで親友の女性に会い、いくつかの質問をしました。その返答の様子から、もしかして、彼女が犯人では？と直感しましたが、問い詰めることができず、素直に引き下がりました。

一般常識にとらわれた刑事の捜査を通して、いったん思い込んでしまうと自分の考えに疑いを持たなくなるという特徴をドラマ化しました。この作品は、エドガー・アラン・ポー作の「盗まれた手紙」を参考に書いてみました。

⑤ゆう子シリーズの「友情をかけた嘘」では、裁判官を志す正義感あふれる親友横山の断腸の思いの嘘を描きました。ゆう子は、新体操の選手でオリンピック出場を目指す糸島中学3年生です。糸島高校に進学を決めていたゆう子は、突然年末に教頭から東京の名門高校への特待生に推薦されたが、幼なじみの菊池を忘れることができず、東京への旅立ちに足踏みをしていた。一方、菊池も大分の名門高校からスカウトされていたが、幼なじみのゆう子から離れることができず、ゆう子と一緒に糸島高校への進学を望んでいた。

横山は、このままでは、ゆう子のオリンピックへの道は途絶えてしまうと思い、二人に嘘を言って、それぞれの夢に向かわせる決意をした。ゆう子は、“菊池は大分の名門に進学する”という嘘を横山に聞かされ、信じていた菊池に裏切られたと思ったゆう子は、東京へ旅立つ決意をした。ゆう子の決意を聞かされた菊池も、甲子園のマウンドに立った晴れ姿をゆう子に見せようと大分へ旅立った。

ゆう子は、福岡空港を飛び立った飛行機の中で菊池からのメールを開き、その時初めて、横山の嘘に気づいた。そして、正義感あふれる横山の断腸の思いを考えると涙が止まらなかった。ここでは、親友の夢を後押しするために心で涙する横山の友情を描きました。